

令和6年度 秋の自然観察会 ～京都御苑のキノコ～ 実施報告

【日時】 令和6年10月13日(日)

【集合】 京都御苑堺町休憩所

【講師】 佐野修治氏(関西菌類談話会会員)

【参加者】 比良山岳会5名、京都山の会8名、稜線散歩会6名、下京山岳会4名

趣味登山会8名、ゼニーツクラブ1名、京都山岳会3名

一般及びパーソナル会員7名(うち子ども1名)、委員参加者13名、合計55名

【天候】 晴れ 気温25度(午前11時京都市)

【行程】 9:00 堺町休憩所集合 開会挨拶 講師紹介(佐野修治氏 関西菌類談話会)

講師挨拶

9:10 堺町休憩所周辺～賀陽宮邸跡～西園寺邸跡～富小路広場北側(歩行約2Km)

12:00 閉会・解散 富小路広場北側

【観察会概要】

暖かい秋の晴天のもと、子ども1名を含めキノコ観察には程よい55名の参加で実施されました。講師の佐野修治氏により、キノコ観察会での氏の一貫したキノコの見方、考え方を教わりました。それは、「人間(ホモ・サピエンス)もキノコも同じ生物であり、大切にしてほしい」という願いを基本にし、「キノコの名前を単に覚えるだけの観察会ではなく、命の観察会である。」という考え方です。キノコを通して、我々人間の生き方、生死観から地球規模の環境問題にまで及ぶ壮大な問いかけを、氏の歩んでこられた人生と重ね合わせながらお話しされました。

★京都御苑には423種のキノコが確認されていて、さらに新種も発見されています。

★生物は、動物、植物、菌類の3つに分類できる。(3界説)(注:大学などの研究室では8つに分類)

★菌類は、細胞に核があるかないかで真菌と細菌に分類され、真菌にはキノコ、カビ、コウボがある。

★キノコは菌類なので、動物でも植物でもない。本体は地中にある菌糸で、菌糸は成熟すると胞子をつくって繁殖する。その胞子を作る子実体を「キノコ」といい植物の花に相当する。

★キノコなど菌類は、動植物が死を迎えた後の遺体を分解し土に返す、すなわち有機物を無機物に分解する役割を持っていて、自然界の循環に貢献しています。

★樹木に寄生するキノコはその樹木の代弁者であり、森の環境を知る指標でもある。キノコを通して地球全体を見る目を養ってほしい。

★菌類は、栄養の取り方で3つに分類できる。キノコの名前より3つの生きざまを理解してほしい。

(1) 共生型きのこ

マツタケはアカマツと共生している。マツタケは、アカマツの光合成でできた多糖類をもらい、アカマツの根より細い菌糸を使って水分を集め返している。

(2) 腐生型きのこ

オチバタケは、3mm～5mmの落ち葉を菌糸からでる酵素で溶かして栄養を吸収し、土に返す。

(3) 殺傷菌

カメムシやセミの幼虫に寄生し、子孫を残したいところへ移動させてとどめを刺し、キノコとなり地上に出る。注:冬は虫の姿、夏はキノコの姿なので、冬虫夏草と呼んでいる。

★すべての菌類は植物と繋がっていて、連絡しあっている。

★現代を、「人新世」と呼んでいる学者がいる。人類の活動により環境変化が大きくなり自然のシステムを変

えてしまった時代を指す。今、自分は何ができるかを考えよう。食品ロスを減らすのも一つである。食事前
後には、命をもらうという意味を込めて「いただきます」「ごちそうさま」と言いたい。

★「カーボンニュートラルと自然再考」（森林総合研究所刊行）を紹介されました。参考にして下さい。

「オニフスベ」 幼菌



老菌



【貴重な軽さ体験、オニフスベの老菌】

同じ場所にオニフスベの幼菌と老菌があった。幼菌は1週間から10日ほどで大きくなり子孫を残すために
胞子を出す。老菌は蹴られた？形跡がありました。自分の役目（胞子を出し子孫を残す）を終え、虫たちに
「食べてもいいよ」と言っているようです。次の命の糧となり、命をつないでいく。

オニフスベの老菌を何人かが手にもって見る体験をしました。見た目より驚くほど軽く、叩くと黄色い胞子
が花粉のように飛び散りました。貴重な体験で研究者でも手に持った人は少ないそうです。

先生から、「オニフスベの老菌は、なくなった能力を悲しむより、倒された時にこそ胞子を出す。今、自分は
何ができるかを一生懸命に考え、行動している。」と示唆に富む話をお聞きできました。

コツブタケ



コツブタケの若いキノコです。蹴られていたものを拾って半分に割って断
面を観察しました。文字通り（名の由来）、小さい小粒の石のようなもの
が詰まっていた。

キノコ染めにすると金色ゴールドに染まるそうです。

コフキサルノコシカケ



ツガサルノコシカケ



コフキササルノコシカケは下へ下へと成長するものと前へ前へと成長するものの2種類がある。これは前者である。成長している若い白い部分から胞子が出る。キノコの上部の帽子のような部分の固い傘で、キノコを守っている。

ツガサルノコシカケは、漢方薬にはならない。どちらも、木材腐朽菌で、樹木の状態、環境度、自然度がわかる。

チチアワタケの幼菌



笠の裏にはヒダがなく猪口になっている。柄は黄色。名の由来は若い菌は乳を出すから。

カワラタケ



まわりが白い若い菌。昔は癌に効くといわれたが毒性をあわせもつため、薬は中止された。

ヤナギマツタケ



木材腐朽菌で分解させる速度は速いため、木材はすぐに土に戻る。食用でフランス料理、イタリア料理にも使用される高級食材。トリュフと違い季節限定である。

ノウタケ



フニャフニャでマシュマロ感がある若いうちは、食べられる。

アズマタケ



ウラベニガサの仲間



カワウソタケ



シラゲタケ



ナラタケモドキ



ニクコウヤクタケ



ヒイロタケ



緋色のキノコ
キノコ染めで黄色に染まる。

開会式



オニフスベの説明



佐野先生、ありがとうございました。